



# 斐然成章

成章中学校 学校便り  
令和8年3月12日  
第7号  
文責 神崎 浩之

学校教育目標 「心豊かに、自他を高め、章を成す」

～ 変化に向き合い、信頼される優しさを持ち、社会に貢献する ～

## 第79回卒業証書授与式 ～ 時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう ～

3月6日（金）、多くのご来賓、地域の皆様、保護者の皆様に見守られ、第79回卒業証書授与式を挙行しました。卒業生165名全員に「おめでとう」の言葉を添えて卒業証書を手渡しできたことは、たいへん嬉しいことでした。式辞では、卒業生の皆さんが三年間の学びを通して身に付けた力、そしてこれからの時代を生きていく上で大切にしてほしいことを伝えました。

皆さんがこの三年間で学んだことは、『問いに対して、悩み苦しみながらも粘り強く取り組み、自らを表現し続けることで、必ず確かな成果として現れる』ということです。これは、これからの社会を生き抜くための確かな土台となる力です。

これから皆さんが向かう未来は、AIの進展、価値観の多様化、気候変動など、予測が難しく複雑で曖昧さの増すVUCAの時代です。しかし同時に、この時代は「決められたレール」がなくなった代わりに、自らの力で「どこへでも飛べる翼」を手に入れられる時代でもあります。正解のない暗闇を恐れる必要はありません。未来には、皆さん自身が描き出すことのできる「創造の余白」が残されているからです。

さらに皆さんは今、人類が経験したことのない【人生100年時代】の入り口に立っています。寿命が延びるだけでなく、若々しく健康に、自分の情熱を注げる時間が豊かに用意されている時代です。だからこそ、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力がこれまで以上に重要になります。「変化に向き合い、信頼される優しさを持ち、社会に貢献する」姿こそが、これから求められる生き方です。

式辞の冒頭で紹介した松下幸之助の言葉には、「冬があるから春が来る」という意味が込められています。まさに皆さんが歩んできた三年間は、問いに向き合い、悩みながらも粘り強く取り組む“冬”があり、自らを表現し続けることで成果をつかむ“春”へとつながっていきました。皆さんは、この言葉を体現してくれました。

このメッセージは、卒業生だけでなく、在校生の皆さん、そして日々支えてくださる保護者の皆様にもお伝えしたい思いです。これからも、子どもたちが自ら問いを立て、学び続けていけるよう、学校全体で支えていきたいと考えています。

何ごとをなすにも時というものがある。

時 — 人間の力を超えた、目に見えない大自然の力である。

いかに望もうと、春がこなければ桜は咲かぬ。いかにあせろうと、

時期が来なければ事は成就せぬ。冬が来れば春はま近い。

桜は静かにその春を待つ。

.....

時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。

静かに春を待つ桜は、一瞬の休みもなく力をたくわえている。

上記の文章は、松下幸之助の著書「道をひらく」から、「時を待つ心」の一部です。抜粋して式辞で紹介しました。



## 問いを立てる

式辞でも触れましたが、2月の全校朝会で「問いを立てる」ということについて話をしました。

- ・質問...「問われる側」だけが答えを知っている
- ・発問...「問う側」だけが答えを知っている
- ・問い...「問う側」「問われる側」のどちらも答えを知らない

この「問い」こそが、生徒が主体的に学び、思考を深めていくための“解決すべき学習課題”になります。

近年、「今後10～20年で現在ある仕事の約半分がAIやロボットで代替可能になる」という予測が、野村総合研究所やオックスフォード大学など複数の調査で示されています。AIは与えられた問いに対して高度な回答を返すことができますが、「何を問うべきか」を自ら見付けることはできません。だからこそ、これからの時代に求められるものは、まさに「問いを立てる力」なのです。とはいえ、これまでの学校教育の中で、問いを立てる経験が十分に積まれてきたとは言えません。生徒も、そして私たち教員も、問いを立てることに慣れていないのが現実です。しかし、問いは特別な才能から生まれるものではありません。日常の中に既に存在しているのです。

「半径5メートルから始まる学び」で講演されている赤土豪一さんは、こう語っています。

「やりたいことのヒントは、自分の半径5メートルの出来事と心の動きの中にある」

「これが好きなのはなぜだろう？」とか、「こうだったらいいのに」とか、思うことを深掘りしたところに、やりたいことのヒントが隠れているんです。

こうした小さな“違和感”や“心の揺れ”を言葉にしてみる。あるいは「もし～だったら」と思考実験してみる。身近な人の困りごとに目を向けてみる。その全てが、問いを立てるための大切な訓練になります。

私たちは日々、驚き、不思議に思い、納得できないことに出合いながら生きています。つまり、問いはすでに私たちの生活の中にあるのです。だからこそ、問いを立てるとは、“新しい問いをつくる”というよりも、“既にある問いに気付く”ことなのだと思います。

これからの学びでは、課題設定 → 情報収集 → 分析 → 表現 というプロセスが求められますが、その出発点となるのが「問い」です。生徒たちが自分の半径5メートルから問いを見付け、学びを深めていけるよう、学校全体で支えていきたいと考えています。

## 学校評議員会

2月17日（火）に4名の評議員様に来校いただき、第2回学校評議員会を開催しました。今年度の学校運営、学習状況、学校施設についての説明及び学校評価アンケートの結果から、重点取組の学力向上、特別支援教育の充実や心の教育、健康・体づくり等について、様々な質問やご意見いただきました。また、励まし、労いの言葉も掛けていただき、職員一同感謝しています。お伺いした事項については、来年度に生かしたいと思っております。今後とも、学校の応援団としてご指導いただけたら幸いです。ありがとうございました。

## 今後の行事予定

3月24日（火）1, 2年修了式、辞任式

4月7日（火）赴任式、1学期始業式

4月9日（木）第80回入学式

4月24日（金）成章中サポーターズクラブ総会

5月24日（日）体育大会

5月25日（月）代休